

東京歯科大学同窓会会報 第376号

目 次

グラビア セピア色の写真館

巻 頭 言	1
お知らせ	2～4
同窓会主催全国ゴルフ大会	5～6
理事会のうごき	7～8
学 術	9～10
母校だより	11～15
東京歯科大学 創立120周年記念事業	16～20
支部のうごき	21～26
ふるさと自慢	27
クラス会だより	28
すいどうばし	29～30
庶務日誌	31
逝去会員	32
ホームページ会員ページログイン(情報部)	33
へんしゅうこうき	35

(表紙 河原俊朗)

---

# セピア色の写真館 ～思い出の一枚～



写真上：昭和51年関東医歯薬大会優勝

写真下：昭和55年納会（最前列中央 故関根 弘教授）



昭和49年長野県白馬での夏合宿



昭和53年 OB 戦 (東歯大市川体育館)

### バスケットボール部

バスケットボール部は昭和20年に創設され、初代部長は故久保田英雄先生(昭30年～昭33年)、次いで故関根 弘先生(昭34年～昭62年)、小宮山彌太郎先生(昭62年～平2年)そして現在の河田英司先生(平2年～)へと引き継がれている。

筆者が入学した昭和48年は本学には体育館が無く、都内の体育館を借りての練習であった。昭和49年、当時学生部長であった関根 弘先生の学長への直談判によって、歯科大学では類をみないすばらしい体育館が市川グラウンドに完成した。新しい体育館の効果はすぐに現れ、昭和50年に関東医歯薬大会において悲願の初優勝をし、翌年も優勝して連覇を果たした(表紙写真)。優勝できた陰

にはOB会のバックアップもあり、本学がデンタル(全国歯科学学生総合体育大会)の主管をした昭和49年には部旗を作っていたが、昭和50年に第1回のOB会総会を開催している。

また、昭和50年から関東大学バスケットボール連盟に加盟した。最下部からのスタートではあったが、所属リーグでは優勝し、入れ替え戦では代々木第二体育館で試合を行った。この体育館は日本のバスケットボールの聖地で、バスケットボールプレイヤーの憧れの体育館である。入れ替え戦は平日に行われるため、出欠の厳しい本学では講義や実習をサボることもできない。そこで、学連に頼み込んで最終試合に日程を組み込んでもらい、出場することがで

きた。入れ替え戦も2年連続で突破し、さらに関東大学選手権で上部のチームに勝ったこともあり、大学ナンバー1を決めるインカレ(全日本大学選手権大会)の予選にも出場できた。

筆者の現役時代ではデンタルは準優勝止まりであったが、筆者がコーチを務めた時の低迷期を乗り越え、後輩達が平成7年から5連覇を達成してくれている。また、稲毛へ校舎が移転した機に女子部が誕生し、こちらもデンタルでは輝かしい成績を残している。現在、筆者が現役のころのメンバーの2世が同じくバスケットボール部に入部し、活躍してくれている。頼もしい限りである。

(昭54卒・尾松素樹 記)



昭和54年 OB 戦 (東歯大市川体育館)



昭和60年関東バスケットボール選手権大会

## 減少化社会への対応



副会長

矢 崎 秀 昭

東京歯科大学創立120周年の記念事業は母校の社会における存在感をさらに強くし、大変有意義でありました。さらに水道橋への大学の移転は内外から多くの関心を集めております。この大事業が成功し、さらに東京歯科大学が未来にわたって発展をすることを同窓として強く願っております。

現在の日本の社会は歴史上ほとんど経験したことない、多方面において縮小する方向に向かっています。その根源は人口減少であり、それも急激に進行しております。今日までの日本の繁栄と、世界での存在感は高度経済成長を基盤としていました。しかしながら今後は、あらゆる面において日本社会は年々減少、縮小してゆくも

のと思われます。しかしながら一般的日本人において、今までのような成長し続ける認識を、一気に変更することは誠に難しいことと思われます。ただし例外として、他地区からの流入があり、東京都はここ10年間で約100万人の人口が増加しています。今後とも、人口と社会的機能の集中が加速してゆくものと思われます。

ここ数年、以前では想像もできなかったことですが、全国の私立歯科大学において受験生が急激に減少し、東京歯科大学始め長い伝統を有する大学と、大都市にある大学のみが定員に達していますが、特に地方にある大学は定員の3分の1程度しか新入生がいない学校もあり、誠に異常な事態が生じています。

歯科大の入学定員の大幅な削減、定員の厳守、さらに歯科医師国試の合格者数の減少などにより昭和50年代から平成にかけてのときと比較してみると、新たに歯科医師になる人数は大幅に減少しています。日本歯科医師会においても、若い世代の歯科医師の減少、未入会者の増加などから、終身会員を含めた日歯会員数も前年度と比較して、昨年度は82名の減少となっています。現在55歳の日歯会員は2500名近くいるのに対して30歳世代においては、各歳において約1000名程度となっています。今後、現在50歳代の会員が終身会員になると、会費収入は1年で約1500人分として、毎年5千万円程度の減収が継続して生じることとなります。若い世代の歯科医師が入会しやすいように、特に各地区歯科医師会の入会金を大幅に減ずることや、歯科医師会の意義を強くアピールすることは大切ですが、構造的に会員の減少は避けられず、日歯の会務や機構の規模などを早い時点から見直す必要があると思われます。

同窓会におきましても、今後とも国として、歯科大の学生数を減少させなくてはならない傾向が続くと思われ、同窓会員数も減少することとなります。若手の同窓が各地区の支部に入会するよう、支部と本部の同窓会がその対応に早々に取り組むことが急務と思われます。

女性の同窓会員が益々増加すると思われることから、同一世帯の同窓会費や、共済金のことなど、現在進行しております、同窓会改革検討委員会などにおいて、会務の合理化とともに、より多くの方々が会費を納入して戴きやすい制度を構築してゆくことが急務と思われます。

# お知らせ

## 理事会より

- 情報ネットワークができています。全国109支部の2/3のアドレス登録がありました。今現在も増えています。  
改革検討特別委員会の開催や緊急時歯科医師委嘱制度の協議も始まり、実現に向けて進んでいます。  
詳しくはお知らせ欄会務アラカルトを御覧下さい。

## 同窓会事業・行事

- 母校創立120周年記念第38回全国ゴルフ大会  
と き 平成22年9月2日(木)  
ところ 神奈川県・相模原ゴルフクラブ・西コース  
詳細ならびに申込書は5頁～6頁に記載
- 平成22年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会  
と き 平成22年11月27日(土)  
ところ 如水会館(千代田区一ツ橋2-1-1)
- TDC 卒後研修セミナー2010プログラム  
卒研セミナー  
No.5 『安全で確実なインプラントをするために』 ～知っておきたい知識と手技～ 7月10日(土)・11日(日)  
No.6 『SPT の実際』 ～エビデンスに基づいたメンテナンスとは?～ 9月12日(日)  
No.7 『咬合育成の基礎と臨床』 ～床矯正装置入門～ 10月17日(日)

問い合わせ先：東京歯科大学同窓会学術部  
Tel. 03-5275-1761

## 母校関係行事・案内

- 平成22年度東京歯科大学学会  
第290回総会 平成22年10月16日(土) 千葉校舎  
演題締切 8月24日(火)

### ※訂正とお詫び

会報「375号」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P 5 渉外部委員会委員 副委員長 (○印)	正・岡野祐三 (S48卒) 誤・高橋哲夫 (S46卒)
P 11 渉外の記事 中段下から3行目	正・柳川忠廣 日歯常務理事 誤・稲垣明弘 日歯常務理事

## 会務アラカルト：同窓会改革に向けて

昨年の評議員会では「同窓会の機構改革」が協議題となり、執行部から提案された同窓会改革について貴重なご意見をいただきました。理事一同これらのご意見をうけとめ改革の実現を図りたいと考えております。そのためにはまず会員の先生方一人一人に今回の改革の目指すものをご理解いただくことからと思っております。

### 同窓会改革検討特別委員会が開催

本執行部の大きな柱の一つである同窓会改革を検討する特別委員会が開催されました。

4月15日（木）、第1回委員会では、改革提案が出来上がるまでの経過、改革案に対する評議員会での意見、第二期大山執行部の改革案に対する姿勢、そして3つの作業部会が用意した資料の報告が中心でした。8名の委員から互選で中川杉生先生が委員長に、石塚 勇先生が副委員長に、富山雅史先生が書記に選ばれました。執行部は、11月に開催予定の評議員会で議題か協議題に出せればと考へ、委員会に諮問をして、7月に何らかの形で答申ができないかとお願ひしております。

いろいろな問題が絡み合っているこの課題を大変厳しいスケジュールでこなさなければならぬと申し訳なく思っております。

そして5月20日（木）、第2回委員会が開催されました。第1回目は報告を聞くばかりの会でしたが、今回は委員の先生からの発言が中心となりました。

それぞれの委員から、「情報ネットワークを使ってタイムリーに情報を送れば」とか、大学との連携では「大学に同窓会として何ができるか、そして大学が何をしたいかも聞いてみたら」との助言とか、「学生が先輩のオフィスを見学に行く」とか、シンクタンクでは「大学と同



窓と一緒にやること、そして臨床データをプロスペクティブに集めたら」などのアイデアなどが出されました。

評議員数の削減に関しては肯定的にみうけられました。具体的などのように削減するか、削減した場合地域の声をどのように集約してゆくかについては議論がまだつづくように思えました。

「この改革で何を求めているか」の問いかけに対しては、若手会員の同窓会離れ、支部未加入者の増加の問題、会費収入減の懸念、医政での立ち遅れ、移転をする母校への新たな協力体制などいくつかの目標が上



げられましたが、大きな目的として組織力、人材の育成そして医政の充実により、強い東京歯科大学同窓会を作るということで納得する雰囲気。しかし、東京歯科大学同窓会としてのアイデンティティをどこに求めてゆくかなどの本質的な議論はさらに繰り広げられるのではと強く感じました。

最後に閉会において、執行部はこの改革をどこまでやっていくのか次回までにははっきりさせてほしいと大変厳しい注文を頂きましたが、この言葉を励みに執行部においてもさらに議論を繰り広げようと気持ちを新たにしております。



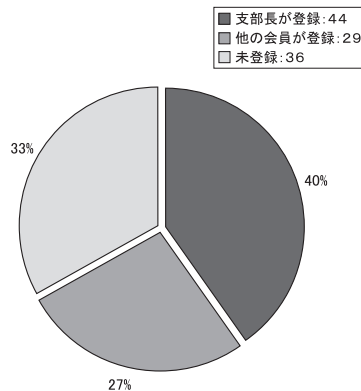
## パソコンによる情報ネットワーク スタート順調

テスト的ではありますが、パソコンによる「支部-本部情報ネットワーク」が始まりました。まず各支部長にネットワークの参加のお願いをしましてメールアドレスを登録させていただきました。5月22日現在で109支部のうち73支部から登録いただいております。パソコンは苦手という支部長さんが多いようで、このうち約4割近くが支部長以外の役員の先生が担当しております。

支部との情報交換は手紙やファックスでもできますが、それがパソコンによる情報交換となりますと、なぜか突然普段着に着替えた気持ちになり、気楽な情報をできるだけ早くやり取りしたくなるのが大変不思議です。この3月からスタートですが、すでに何回か情報をテスト的に送らせていただいております。まず東京歯科大学の若い同窓の実家にかけて携帯電話の番号を入手しようとする不審電話へのご注意の一報、母校が健闘した学校別歯科医師国家試験の合格率一覧表、母校創立120周年記念事業へのお誘い、そして支部の現況アンケートもお願いしました。今回のアンケートでは各支部での会員数や会費、活動状況等についてお尋ねしました。このアンケート結果は支部の状況を把握するために大変重要な資料となりますが、それと同時に、各支部にアンケート結果をお知らせすることにより他の支部での活動状況を参考にして各支部での活動がより活発になるのではと期待する部分もあります。今後も学術、厚生、渉外、広報、情報などそれぞれの同窓会事業について、会員先生方の声を継続的に聞きましていく予定ですのでよろしくご協力のほ

どお願いいたします。

情報ネットは、本部から支部への連絡網という意義もありますが、それ以上に一人一人の会員の先生方の声をネットを通して届けて欲しいとの気持ちが根底にあります。まさに情報の共有化を目指しております。まだ情報ネットに登録されていない支部におかれましては是非、情報ネットワークアドレス（各支部長にお知らせ済）に支部名・担当者の名前・支部での肩書き・支部の窓口となるアドレスをお送りください。（大変申し訳ありませんが、現時点では1支部1アドレスの登録とさせていただきます。）



「支部-本部情報ネットワーク ML」  
登録状況（5月22日現在）

## 渉外部からも新しい提案

東京歯科大学同窓会は新しい渉外活動の方向性を模索しています。本来ならば全国各都道府県から渉外部委員を募り、委員会で一同に会し情報の共有と意思統一を図り活動を進めることが理想的ですが、経費や委員の負担などから考えて現実的ではありません。そこで提案されたのがブロック委員会構想です。

各地域支部連合会で各支部からブロック委員を募ってもらい、地域支

部連合会の総会の折にブロック委員会を開いてもらう。そこに本部役員も出席するという出前形式を考えました。効率性以外にも利点は多くあります。地域の目で将来有望な熱い若者を見つけ出してもらい人材育成につなげることができるし、地域の風を現地で感じながら意見の交換ができること、本部での委員会開催より多くの委員をもてるので、日歯や連盟、大学や本部などの最新情報を日本中満遍なく提供でき、会員の先生方にとっても情報地域差を小さくすることができます。

現在、地域選出理事や地域支部連合会の会長の先生方からご意見をうかがっている段階ですが、何と云っても受け入れがなければ進展はしません。地域支部連合会におじゃました折にはブロック委員会導入を検討してくださいとお願いしておりますが、いつか関心をもたれて「うちの地域でテストにやってみたら」なんて声をかけてもらうのを楽しみに待っているのが現状です。

## 緊急時歯科医師委嘱制度も検討進行中

評議員会での「同窓会の機構改革」の協議題の一つに含まれていた課題で、“病気や怪我などで突然診療が出来なくなったときに代診を…”という有難い制度づくりも順調に進められています。理念から実際運用となるといろいろな問題がでてきますので、厚生部委員会ではシミュレーションをたてながら一歩一歩実現にむけて進めております。平成23年度には、どこかの地域でテスト的に始められればと考えており、病院など協力機関になりえるところにアンケートを出そうと現在進行中であります。

# 母校創立120周年記念 第38回同窓会主催全国ゴルフ大会

## ご挨拶

会長 大山 萬夫

第38回同窓会主催全国ゴルフ大会は神奈川県・相模原ゴルフクラブ・西コースにて開催致します。

例年と違い本年は母校創立120周年記念と銘打ちました。多数の会員のご参加をお願い申し上げます。

このコースは日本オープン・関東オープン等ビッグゲームを数多く開催致しております。名門コースです。林間コースで、コース管理の良さで人気の高いチャンピオンコースでございます。特に西コースは変化に富み、セカンドアプローチに苦勞すると云われております。日頃の成果を充分に楽しめることと存じます。

本コースは血脇守之助先生の御子息芳雄氏（故人）がかつて理事長でいらっしゃいました。母校創立120周年記念ゴルフ大会会場となったことに何かの縁を感じます。

本大会では大学理事長・学長よりそれぞれカップが寄贈されております。誌面をかりて御礼申し上げます。

色々とお手配を頂いた委員また神奈川県支部の方々に感謝申し上げます。

親善ゴルフが主眼です。楽しく一日プレーを致しましょう。



-----キ---リ---ト---リ---線-----

## 母校創立120周年記念 第38回同窓会主催全国ゴルフ大会申込書

所属支部名 \_\_\_\_\_ 氏 名 \_\_\_\_\_ 卒業年度 \_\_\_\_\_

住 所 〒 \_\_\_\_\_ TEL ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_ ハンディキャップ  
(プライベートでも可) \_\_\_\_\_

通信欄

参加費7,000円を添えて申し込みます。



## 母校創立120周年記念 第38回同窓会主催全国ゴルフ大会ご案内

母校創立120周年記念第38回ゴルフ大会を、神奈川県・相模原ゴルフクラブ・西コースにて開催いたします。

当コースは昭和30年開場の名門で、5万本以上の樹木に囲まれた風格あるチャンピオンコースです。

会員各位には奮ってご参加をお願いいたくご案内申し上げます。

開催日時 平成22年9月2日(木)

会場 相模原ゴルフクラブ 西コース

〒229-0011 相模原市大野台4-30-1

TEL 0427-76-8811

FAX 0427-54-1211

交通 車利用 東名高速

横浜町田ICから10km

電車利用 小田急線・相模大野下車

クラブバスあり約20分

競技方法 18ホールストロークプレイ  
(ダブルペリア方式)

参加費 7,000円(含パーティー費、賞品代)  
その他は個人払いとします。

参加人数 160名(先着申込順)

申込期間 平成22年7月1日～7月19日

申込先 東京歯科大学同窓会ゴルフ大会係

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

TEL 03-5275-1761

申込方法 下記の参加申込書に所定事項記入の上、会費7,000円を添えて、現金書留封筒でお申し込み下さい。クラス会単位その他のコンペ同時開催による一括申込の場合も申し込み時に必ず全員の参加申込書と会費を添えてください。なお、電話での受付はいたしません。

追記 本大会についての詳細は大会実施要項として、参加申込み手続き終了の方に直接お送りします。その他ご質問お問い合わせは下記ゴルフ大会委員にお願いいたします。

高宮紳一郎 TEL 03-3406-3677

◎宿泊 下記に各自お申し込みください。(割引なし)  
ホテルセンチュリー相模大野

〒228-0802 相模原市上鶴間3510-12

TEL 0427-67-1111

FAX 0427-67-1011



# 理事会のうごき

## 第2回理事会

平成22年3月20日(土)午後2時30分

於 特別会議室

出席 29名

議長 大山会長

### 会長挨拶

母校創立120周年記念式典、移転に関わる募金の問題等について学長と3回目の対談をして、現況を伺ったうえで会員の声を直接ぶつけ回答をいただいた。この対談を会報4月号に掲載する予定である。

次期参議院選挙候補者の件で、六校の同窓・校友会会長の集まりがあるが、西村参議員候補について協力支援してゆく予定である。

連合会長との懇談会開催の件、特別委員会の設置の件、来年度担当の全歯懇の件等についてご審議をいただきたい。

### 黙 禱

平成22年2月18日から本日までに逝去連絡があった10名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

### 会務報告および承認

1) 平成22年2月17日から12月20日までの日程を報告。

2) 各部報告

(1) 総務部：①平成22年2月22日付支部長名簿を配付。②支部長交代について4件報告。③支部長退任時の感謝状・記念品の贈呈について4件報告。④支部学術講演会講師派遣交通費の支出について6件報告。⑤法人の会議室使用について資料を配付して報告。⑥「大学病院カルテ指導委員推薦」について説明、報告。

(2) 会計部：会計業務日程について説明、報告。

(3) 渉外部：①渉外部委員会について報告。②3月11日開催された日歯役員・代議員、都道府県歯会長と同窓会役員との懇親会において同窓会本部の医政対応等について討議されたことを報告。

(4) 学術部：①学術部委員会について報告。②2010年度卒後研修セミナーの状況について報告。③3月25日開催の新入会員へのオリエンテーションで学術部委員会委員が卒業後のセミナー参加について他

説明する予定であることを報告。

(5) 広報部：①広報部委員会について報告。②同窓会改革案の現況を会報に毎号掲載し、会員にお知らせしたい旨報告。③東京歯科大学120周年記念式典を取材して会報6月号に掲載予定である旨報告。

(6) 厚生部：厚生部委員会について報告。②逝去会員の報告および規程により弔慰共済金を支給した旨を報告。③罹災会員について報告および規程により罹災共済金を支給することを報告。

(7) 保険部：①保険部委員会について報告。②従来改訂年には保険の手引きを作成してきたが、次回委員会において継続して同じものとするか・別の形にするかを検討して事業を進める旨報告。

(8) 情報部：委員会未開催のため報告はなし。

(9) 情報ネット推進ワーキンググループ：①アンケート結果等について説明。平成21年時点における地域支部連合会の活動と問題点をピックアップしてあるが、現時点を知るため、地域選出理事にアンケート提出を依頼し、各地域における問題点・意見・本部への要望その他意見を後日送付するよう依頼したことを報告。

(10) 作業部会：①管理系ワーキンググループについて説明。年度別に会費の納入状況では会員数の減少と共にここ数年少しずつ減ってきている傾向にあること、支部未加入の会員は27%程度しか納入されていないこと、学年別のデータにおいては若年会員に未加入者が多いこと、これらの問題に対する解決策などについて報告。②事業系ワーキンググループについて説明。本年度、若手支援のため、臨床研修医を中心にした保険・学術研修会を試行する予定であること、また、シンクタンク機能の推進をすること、これらを具体的に早急に進めていくことを報告。

(11) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会は平成23年7月23日(土)開催することを報告。

(12) 東京歯科大学120周年記念事業・水道橋移転の協力準備会において、募金要綱の案に対して出来るだけ多くの会員が協力できるよう大学と意見交換した旨を報告。

### 各地域選出理事報告

1) 戸田理事(北海道)

①4月24日(土)臨時総会また8月21日通常総会を開

催予定であることを報告。

2) 高橋理事(東北)

①6月12日(土)東北地域支部連合会総会を開催予定であることを報告。②支部と本部のパソコンネットワークについて宮城・青森・秋田の各県から提出済みであることを報告。

3) 早速理事(東京)

①新執行部が合同委員会を立ち上げこれから各事業を展開していくことを報告。②保険講習会を開催する予定であることを報告。③在京4校の有識者懇談会を開催することを報告。

4) 飯島理事(信越)

①7月3日信越地域支部連合会総会を開催予定であることを報告。②8月28日長野県支部合同総会を、松本で開催予定であることを報告。

5) 宮田理事(東海)

①2月14日東海地域支部連合会役員協議会が開催され、従来は毎年交代で地域連合会を開催していたが、岐阜県と三重県の会員が少ないので本部主導で地域支部連合会を開催し、場所も名古屋とか一箇所毎で毎年開催するとの提案があった。6月役員連絡協議会で再度打ち合わせる事を報告。

6) 井口理事(近畿)

①5月22日開催の地域支部連合会会長との懇談会を期待しているが、地域支部連合会と本部との間で考え方にギャップがあるように思われる。支部長間で協議のため早めに懇談会のテーマを案内されたい旨報告。②現在和歌山県支部には会則がない、本部で推奨する会則を提案してもらいたい旨要望。③奈良県が大変なので支部統合の形で進めてもらいたい旨要望。

7) 山根理事(中国)

①中国地域支部連合会総会は2年に1度開催なので、今回は来年開催される。各支部の総会開催など現況を報告。

9) 久保田理事(四国)

①5月30日に四国地域支部連合会総会を愛媛県で開催予定であることを報告。②支部の総会を毎年行っているのは、愛媛県のみであることを報告。③四国4県は情報ネットワークに協力して行きたい旨報告。

協議事項

- 1) 会費、共済負担金納入延期願いについて2件承認。関連して廃業会員も含めた会員種別の検討の要望、会費納入延期願い後の免除申請がなされない例など、ルールに関して各支部から意見等を知りたいとの要望があった。
- 2) 各種委員会委員の委嘱について協議の結果、名簿のとおり承認。
- 3) 平成21年度同窓会会計決算について説明、協議の結果、承認。
- 4) 同窓会改革検討特別委員会(仮称)の諮問内容、委員選出について提案され承認。詳細は会長一任。
- 5) 大学の水道橋移転にかかわる寄付について意見が交わされた。
- 6) 第3回理事会終了後、エドモントホテルで大学関係者を交えた懇談会・懇親会開催が提案され、承認。
- 7) 渉外部の活動案として、各ブロック別に渉外委員を定め、地域支部連合会総会開催時に担当役員が開催地へ赴き、意見交換のためのブロック委員会を開催する案が提案されたが、地域選出理事より、導入にはまだ問題がありとの意見が出され、継続審議となった。
- 8) 支部長必携の見直しについて平成5年より見直しがされていない支部長必携の改訂が提案され承認。
- 9) 地域支部連合会会長との懇談会の協議内容が提案され承認。
- 10) 本年秋から来年にかけて予想される石塚ビルへの引越し準備のための会が提案され承認。
- 11) 全歯懇の開催のため、準備委員会を設置することが提案され承認。詳細は会長一任としたい旨提案され、協議の結果、承認。
- 12) 会則検討特別委員会の立ち上げが提案され、協議の結果、承認。委員の選出などは会長一任。
- 13) 第22回参議院比例代表選挙では、本同窓会としては西村候補を支持して行く方向とし、その際の方法などについては会長と渉外担当に一任とする提案があり承認。

## 卒研リポート2010

### 根管処置の経過不良を考える ～そのメカニズムと治療～

4月25日に、中川寛一先生によって講義と実習が行われた。

根管処置の経過不良には、腫脹を繰り返す、滲出液が止まらない、フイステルが消失しない、自発痛、咬合時痛が止まらない等があり、要因として、解剖学的要因、直視で行えない、腫脹や痛みの診断が困難である、根尖が破壊されている、根充の時期の判断が困難である、等があります。

安全、確立、効率的な歯内療法を行うための本講演、実習から、以下いくつかの治療要点を記してみたい。

- (1) 根尖の尖ったところに根管がまっているわけではないと認識する。
- (2) 感染根管処置の始めは控えめに、抜髄の時は多めに処置をする。
- (3) 湾曲していたら、外側の壁を削去し根管を真っすぐにする。(特に根管上部2分の1)
- (4) 根管の断面をいつも頭にいれて行う。
- (5) うまくいかない症例では、拡大のしすぎが多いので注意する。

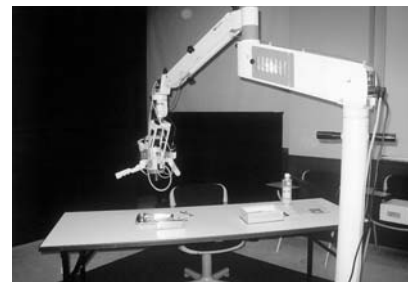
- (6) 髓室、根管へのアプローチがしやすいようにする。
- (7) レントゲン上と解剖上の根尖は0.5～1ミリ違う。
- (8) 稀に下顎前歯の舌側にもう1根管ある事があるので注意する。
- (9) 根管、髓角、根管口が一直線になるようにする。
- (10) 髓床底と側壁の色は違い、壁は白みがかっている。
- (11) 可及的に清潔にするために、軟化象牙質の除去、カリエス処置はしておく。
- (12) 中切歯は切端部を少し解放すると、処置しやすい。
- (13) 上顎第一大臼歯の50%は4根管ある。
- (14) 入り口から器具がスムーズに入るようにする。EDTAペーストを先端につけて、スムーズにはいるようにする。
- (15) 穴が開いている時、肉芽組織があがっていると治らないが、縁がきっちり見えるものは治りやすい。無菌的にするために、根管充

填ができるのであればしておく。4-META もよろしいし、デンツプライのMTAがよりよいようです。

- (16) 病巣のあるものは、根尖まで開くので、超音波切削を利用し、EDTAとKファイルでパスを通す。
- (17) カンジダに感染している場合は、0.2%以下のクロルヘキシジンでおこなう。
- (18) 綿栓を使う場合は、最低でも火で炙るようにする。巻いたままは使わないようにする。
- (19) 根尖到達性をよくする。
- (20) 根尖部分に未切削部分を残さないようにする。
- (21) 根尖孔の形成は、せいぜい35号までにする。

まだまだ沢山のポイントを、中川先生の講義と実習から学びました。是非、同窓の皆様にも聞いて頂きたい講演でした。

(取材・広報部 尾崎圭子)



## 卒研レポート2010

## はじめの一步「口腔内から何を読み、何を考えるか」 ～診断のプロセスを学ぼう～

2010年5月16日（日）に、TDCビル13階の教室およびセミナー室において行われました、同窓会卒後研修セミナー、はじめの一步「口腔内から何を読み、何を考えるか」～診断のプロセスを学ぼう～を取材してきました。今回は初心者の歯科医師が患者さんの口腔内を見て、どのような情報を得ることができるのか？をメインテーマとし、午前中はペリオの症例、午後は欠損歯列の症例について参加者がグループディスカッションを行うという形式で進行されました。まずセミナーの導入として加藤賢祐先生が1枚の症例写真を提示し、この写真から読み取れる所見を参加者一人一人にインタビュー形式で質問していきました。その結果、いくつもの問題点が抽出され、1枚の写真から様々な情報が読み取れること、問題点を拾い上げる目を養うことの重要性を参加者自身が身を持って体験しました。その後、浅田先生から本セミナーの企画意図、平井先生から症例提示による情報収集のポイントの講義があった後、提示されたペリオの症例写真について、チュートリアル形式でスモールグループディスカッションが行われました。初心者の若い先生方は、なかなか問題点の抽出が出来なかったり、情報を読み取れなかったりしていたようですが、ベテランのチューターの先生方のお陰で何とか

ディスカッションを行うことができました。その後チューターの先生方より、各グループの討議内容が紹介されました。午前中の最後は山本英之先生による「ペリオを中心に長期症例でわかること」と題した講演が行われました。慢性疾患であるペリオによって引き起こされた骨吸収の状態が歯の喪失に関連しており、一人平均現在歯数が年齢とともに減少していく坂道で何を読み何を考えるかが「臨床」であり、炎症のコントロールと力のコントロールが重要であると力説されました。

昼食をはさんで午後は、まず野嶋昌彦先生により「欠損歯列の読み方」と題した講演です。欠損を読むためのキーワードは、アイヒナーの分類、咬合支持、受圧要素、加圧要素、残存歯数であるとした上で、アイヒナーの分類ではすべてを解決できないため、咬合支持、残存歯数から診断をする「宮地の咬合三角」の重要性が説明されました。この講演の内容を踏まえた上で、再びチュートリアル形式で今度は欠損歯列の症例についてのスモールグループディスカッションが行われました。午前中と同様に各グループの討議内容が紹介された後、今回のセミナーの総まとめとして、宮地建夫先生より「長期経過症例から見た診断の重要性」と題した講演が行われました。先生の何十年にも亘る豊富な臨床例を提

示していただきながら、歯が失われてしまう終末を予測した上で、症例の難易度と重症度の診断について有意義なお話をいただきました。すれちがい咬合になるにつれて難易度が増し、終末に近づく4つの要素、すなわち歯数が多く、咬合支持が少なく、受圧がなく、加圧が強い、に加えて第5の要素として終末のパターンを「カマーの分類」を加味し、症例を難易度ではなく重症度で診断することが重要であるとの説得力のあるお話でした。結局、重症度とは「このまま放置するとどんなに悪くなるかを予測する」ことであり、難易度とは「義歯を作って咬合回復した後にどんなトラブルが起きるか予測する」ことであるとのことでした。

今回は初心者向けのセミナーで、若い先生方が多いのかと思っておりましたが、年配の先生も多数参加されていました。患者さんの口腔内を最初に診査した時から何十年も経過を追い続け、その記録をとり、自分の行った治療の再評価もし、終末を予測できることが歯科医師としての使命であり、そのためには口腔内の情報をいかに読み取るか、その「はじめの一步」が大変重要であるということを改めて学んだ一日でした。講師の先生方お疲れ様でした。

（取材・広報部 古澤成博）



# 母校だより

## 平成22年度 母校入学式



桜の花は満開となったものの生憎の雨模様の中、去る4月5日（月）午後1時から千葉校舎講堂において平成22年度入学式が挙行された。大学関係者、父兄会および同窓会役員、新入生父兄が多数臨席する中、管弦学部在校生ならびに同窓生の演奏、合唱部による校歌斉唱の後、佐藤 亨学生部長の司会により開式された。一同起立して国歌「君が代」を斉唱、小田 豊教務部長の呼名により、新入生128名ならびに学士編入学者10名が一人一人起立一礼して紹介された。

続いて金子 譲学長から「皆さんは本学創立120周年の記念すべき年の新入生である。皆さんが歯科医師として働き盛りの頃には、現在の再生医療や遺伝子治療が定着し、全く新しい概念の診断治療が芽生えていることであろう。その変化に対応するために、学生の間にもまず知的好奇心を身に付けてもらいたい。また、我々の仕事は患者さんなくしては成り立たない仕事であり、歯科医学イコール人間学と言っても過言ではない。血脇先生の教育理念をもとに、この6年間で人間性の寛容、勉学の習慣、知的好奇心の3点を育ててほしい。そのためにも1. 在学中の

試験に合格すること。またそのためには授業に出席すること。2. 本学の教育方針を理解し、教育環境を活用すること。3. クラブ活動に積極的に参加すると同時に、授業にも積極的に参加することが楽しくなるように自己を確立してほしい。」と訓示された。また、熱田俊之助理事長は、「新入生の皆さんには120年の伝統のある世界に冠たる東京歯科大学を支え、さらに素晴らしい大学に育てていていただきたい。これからの6年間は、皆さんの人生で最も輝き、実りの多い時期だと思うので、青春を謳歌し多くの生涯の友と

出会っていただきたい。心と身体の健康を大切に学生生活を思いきり楽しみ、学問に勤しんでほしい。」と祝辞を述べられた。

次に新入生代表の中川結理さんが「歯科大生の本分を全うし、本学学生の名に恥じないように勉学に励む。」旨の宣誓を行った。さらに新入生に対して大学の徽章授与が行われ、金子学長から代表の小崎芳彦君の胸に授けられた。続いて管弦学部OBの松木英作先生の指揮のもと、出席者一同で高らかに校歌を斉唱し入学式を終了した。



## 平成22年度新入生名簿

朝原 円	石 彩記子	石 東 叡	泉 澤 貴	伊 藤 彩 夏
伊藤 慎一郎	稲 田 潤一郎	井 上 京 士	今 井 紬	上 田 隆 介
宇田川 詩 織	浦 風 孝 雅	大 崎 喜 昭	大 澤 尚 久	大 関 邦 彦
太 田 雄一郎	岡 弘 貢	小笠原 美 月	岡 本 龍 多	大 萩 原 光 博
小 澤 悠	勝 田 千 尋	加 藤 禎 彬	金 子 千 尋	亀 谷 愛
川 井 毅	川 勝 美 里	川 崎 晃 平	川 島 建 太	河 角 久美子
北 はるな	城 戸 香 織	木 村 峻 輔	倉 島 智 洋	黒 木 篤 子
小 池 香 奈	小 出 俊	小 崎 芳 彦	古 藤 裕 也	小 松 万 純
小見山 雅 道	小 山 拓 洋	根 東 愛	齋 藤 真 帆	笹 間 達 文
佐竹 奎 亮	佐 藤 麗	佐 藤 仁 美	佐 藤 友 理	下 里 翔 平
正 畠 裕 之	辛 麻 由	新行内 恵	杉 浦 貴 則	杉 山 雄 紀
鈴木 聡 太	相 馬 章 人	高 木 貴 浩	高 野 卓 也	高 橋 理 顕
高 橋 彩	武 富 基 起	田 所 勇 樹	田 中 健 太	棚 瀬 稔 貴
谷 口 修一朗	谷 本 雄 輝	塚 原 佑 果	手 束 俊 介	富 樫 彩 乃
永 井 里 歩	中 川 結 理	中 島 好 明	中 野 僚 子	中 村 彩 大
中 村 舞 音	中 村 真里江	西 村 達 郎	西 山 真 央	根 來 大 幹
萩原 淳	朴 世 津	長谷川 祥	波多野 恵 太	濱 口 翔 一
濱 田 祥 一	林 亮 佑	原 真 代	原 みず穂	原 由 希 乃
原 田 俊 裕	平 尾 充	平 山 真 菜	深 沢 香 菜 子	深 澤 俊 也 紀
福 田 諒	藤 野 亜 紀	藤 森 香 菜 子	藤 山 祐 平	船 久 保 真 紀
堀 眞 穂	本 城 怜	本 間 遼	松 岡 晃 太郎	松 上 大 亮
松 崎 勇 佑	松 島 健 人	松 本 美 波	三 浦 慶 奈	水 野 周 平
宮 崎 晋 彦	武 笠 友 里 香	村 上 翔 椰	本 吉 礼 奈 子	役 山 嵩 晃
矢 崎 龍 平	柳 川 昌 太	山 内 茉 椰	山 門 慶 子	山 崎 梓 花
山 崎 駿 加	山 崎 佑 希	山 田 大 貴	山野辺 広 中	横 山 莉 花
吉 峯 綾	吉 本 千 鶴	若 林 尚 文		

## 平成22年度第2学年編入 (10名)

相原 彩 子	大國谷 彰 人	甲 斐 修	菊 地 崇 剛	小 菅 和 子
清水 雅 史	菅 谷 悠 介	中 島 美 佳	橋 本 千 明	山 口 樹 里

大学教務課より提供された資料により、個人情報保護法の観点により掲載しております。

(広報部委員会)

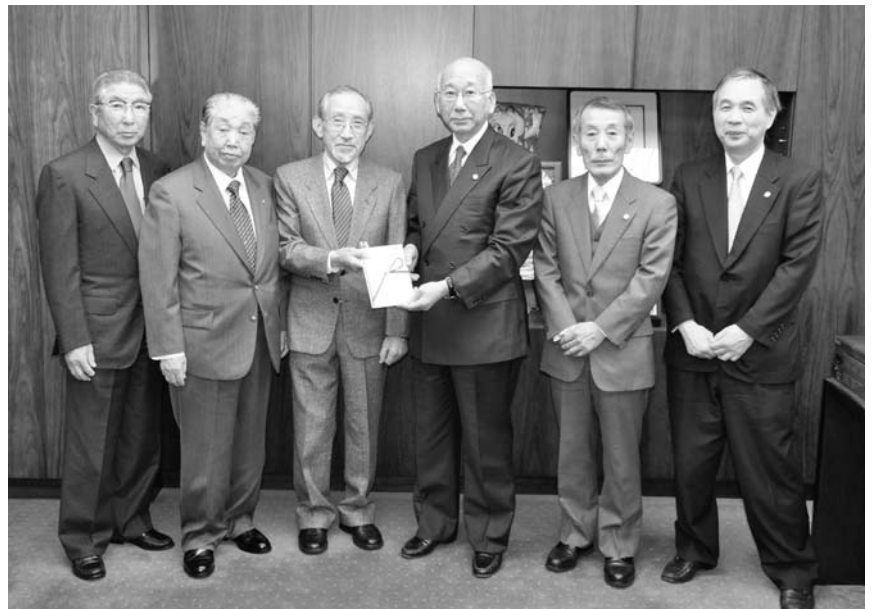
## 水道橋移転に対する クラス会(昭和24年卒・いとし会)より大学へ寄付

平成21年11月、卒業後60周年記念クラス会(いとし会)総会を行いました。このところ10数年で会員数も半減し、総会出席もままならぬ方々も増えました。時の流れはいかんともし難いものがあります。今年3月決算と今年度総会の日程等につき、幹事5名にお集まり頂きました。席上いとし会の余剰金の一部を母校水道橋移転事業に寄付の提案があり、全員一致で賛同致しました。この実行については大学側の事情を考慮し、なるべく早期にという事になりました。当然の事ながらいとし会総会の議決を得ておりません。そこで急遽斉藤より会員家族84名に決算書と書簡を送り了承を頂く事にしました。この結果をふまえて平成22年4月22日(木)、斉藤久、杉山邦夫、宮田俊昭両君同道にて、水道橋校舎に金子学長、薬師寺・井出両副学長を訪ね、いとし会々員からの寄付金と

して金100万円を贈呈させて頂きました。「志あれば事竟になる」(後漢書)の古語により熨斗袋には“志”の一次を記しました。母校のさらなる発展と燦たる未来を願い、水道橋移転事業の成功を祈願し寄付金の用途

については、特に問わぬことに致しました。当日、金子学長、薬師寺・井出両副学長からの丁寧な御礼の言葉を頂きました事を申し添えさせて頂きます。

(いとし会会長 斉藤 久 記)



### 北海道地域支部連合会報

「市川予科生に問ふ」と題した、北海道連合会報第37号が遂に発行されました。

表紙に予科教育陣の写真を配置した本号は、市川予科の門をくぐりたる予科生に、再び「リベラルアーツ」を問いかけたものであります。

今号の市川特集には、生理学講義、実習で大変お世話になった坂田元教授に、市川予科のリベラルアーツを語っていただきました。

一方、地方誌としては全国の同窓会誌上初めての掲載となる、金子譲東歯大学長による水道橋移転を念頭においた「血脇イズム」について

の談話はまさに同窓諸兄の必読の書となる内容となっております。

この様に、今回も地方同窓会誌とは思えない内容であります。

いずれにしても本誌を手にした同窓諸兄は、皆感涙にむせぶ事でありましょう。残部多数あります。ご希望の方は大内まで連絡ください。

(大内和憲 昭50年卒)

〒003-0011

札幌市白石区中央1条7丁目

白央ビル2F 大内歯科小児歯科  
クリニック・大内和憲

TEL・FAX 011-863-6061

No. 37

**東歯大同窓会道連合会報**











市川予科教育陣写真

【市川特集】予科のリベラルアーツ「市川予科生に問ふ」  
坂田三弥元教授が語る市川予科の思い出

【小樽支部特集】小樽支部の歴史のひとこま



## 東京歯科大学学務等役職者

任命期間：平成22年6月1日～平成25年5月31日（定年退職者は当該日まで）

（敬称略・順不同）

※診療科部長・診療科科長・教育主任の任命期間：平成22年6月1日～平成23年5月31日

平成22年6月1日現在

役 職	氏 名	役 職	氏 名
〈寄附行為規定役職者等〉		実験動物施設管理部長	田崎雅和
学 長	金子 讓	広報・公開講座部長	橋本貞充
副 学 長	井出吉信	臨床教育委員長	矢島安朝
副 学 長	柳澤孝彰	臨床研修委員長	角田正健
千葉病院 長	高野伸夫	総合講義・実習委員長	河田英司
市川総合病院 長	安藤暢敏	臨床基礎実習室運営委員長	中川寛一
水道橋病院 長	一戸達也	健康管理センター主任	大久保 剛
大学院歯学研究科 長	井上 孝	情報システム管理委員長	河田英司
歯科衛生士専門学校 長	石井拓男	アイソトープ研究施設管理部長	石原和幸
		アイソトープ研究施設放射線安全管理室長	佐藤 裕
		歯科医学教育開発センター主任	河田英司
図 書 館 長	松久保 隆	〈大学院研究科〉	
副 館 長	内山健志	教 務 部 長	東 俊 文
分 館 長	丸 茂 健	学 生 部 長	末 石 研 二
分 館 長	堀田宏巳		
口腔科学研究センター所長	井上 孝	移 転 部 会 統 括 部 長	石 井 拓 男
教養科目協議会幹事	橋本正次		
基礎教授連絡会幹事	田崎雅和	〈千葉病院〉	
臨床教授連絡会幹事	矢島安朝	副 病 院 長	櫻 井 薫
教 務 部 長	河田英司	副 病 院 長	柴 原 孝 彦
副 部 長	柴原孝彦	副 病 院 長	中 川 寛 一
副 部 長	石原和幸	保 存 科 部 長	中 川 寛 一
副 部 長	望月龍二	小 児 歯 科 部 長	新 谷 誠 康
副 部 長	平田創一郎	口 腔 外 科 部 長	柴 原 孝 彦
学 生 部 長	佐藤 亨	歯 科 麻 酔 科 部 長	一 戸 達 也
副 部 長	矢島安朝	歯 科 麻 酔 科 部 長 代 理	櫻 井 学
副 部 長	中村光博	補 綴 科 部 長	佐 藤 亨
副 部 長	新谷誠康	矯 正 歯 科 部 長	末 石 研 二
副 部 長	阿部伸一	放 射 線 科 部 長	佐 野 司
研 究 部 長	水口 清	口 腔 イ ン プ ラ ン ト 科 部 長	矢 島 安 朝
副 部 長	石上惠一	綜 合 診 療 科 科 長	角 田 正 健
副 部 長	吉成正雄	ス ポ ー ツ 歯 科 科 長	石 上 惠 一
国 際 渉 外 部 長	佐野 司	内 科 科 長	大 久 保 剛
学 会 ・ 学 術 出 版 部 長	小田 豊	摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科 長	石 田 瞭
歯 科 学 報 主 任	小田 豊	臨 床 検 査 部 長	井 上 孝 司
欧 文 紀 要 主 任	水口 清	綜 合 予 診 室 長	佐 野 司
研 究 機 器 管 理 部 長	石原和幸		
環 境 安 全 管 理 部 長	川 口 充		

役 職	氏 名	役 職	氏 名
〈市川総合病院〉		市川総合病院医科教育主任	西田次郎
副 病 院 長	菅 貞 郎	角 膜 セ ン タ ー 長	篠崎尚史
副 病 院 長	西田次郎	リプロダクションセンター長	石川博通
副 病 院 長	濱野孝子	口 腔 が ん セ ン タ ー 長	山根源之
病 院 機 能 統 括 部 長	森下鉄夫	〈水道橋病院〉	
歯 科 ・ 口 腔 外 科 部 長	山根源之	副 病 院 長	高野正行
内 科 部 長	森下鉄夫	副 病 院 長	古澤成博
循 環 器 内 科 部 長	大木貴博	総 合 歯 科 科 長	古澤成博
消 化 器 内 科 部 長	西田次郎	口 腔 外 科 科 長	高野正行
小 児 科 部 長	江口博之	矯 正 歯 科 科 長	片田英憲
外 科 部 長	松井淳一	小 児 歯 科 科 長	久保周平
脳 神 経 外 科 部 長	菅 貞 郎	歯 科 麻 酔 科 科 長	福田謙一
心 臓 血 管 外 科 部 長	申 範 圭	口 腔 イ ン プ ラ ン ト 科 科 長	関根秀志
整 形 外 科 部 長	白石建	障 害 者 歯 科 科 長	大多和由美
リハビリテーション科部長	新井健	内 科 科 長	仁科牧子
産 婦 人 科 部 長	高松潔	眼 科 科 長	ビッセン弘子
眼 科 部 長	島崎潤	水 道 橋 病 院 教 育 主 任	片倉朗
耳 鼻 咽 喉 科 部 長	中島庸也	〈歯科衛生士専門学校〉	
皮 膚 科 部 長	高橋愼一	副 校 長	高橋俊之
形 成 外 科 部 長	田中一郎	教 務 部 長	杉山哲也
泌 尿 器 科 部 長	丸茂健	学 生 部 長	杉原直樹
放 射 線 科 部 長	青柳裕	予 防 処 置 室 長	高橋俊之
麻 酔 科 部 長	小坂橋俊哉	教 務 主 任	白鳥たかみ
精 神 科 部 長	吉野文浩	(教務主任任期：平成22年4月1日 ～平成23年3月31日)	
臨 床 検 査 科 部 長	宮内潤		
市川総合病院歯科教育主任	外木守雄		

## 平成22年度 東京歯科大学 入試ガイダンス日程

	開催日時	場 所	内 容
第1回	7月11日(日) 13時～15時	水道橋校舎 13階	大学紹介, 入試科目ポイントの説明, 入試概要説明, 個別相談等
第2回	7月31日(土) 14時～16時	水道橋校舎 13階	大学紹介, 入試科目ポイントの説明, 入試概要説明, 個別相談, 模擬授業等
第3回	8月28日(土) 10時～16時	千葉校舎	大学紹介, 入試科目ポイントの説明, 入試概要説明, 個別相談, 模擬授業, 体験実習(要予約)等
第4回	10月31日(日) 13時～16時30分	千葉校舎	大学紹介, 入試科目ポイントの説明, 入試概要説明, 個別相談, 模擬授業等〔大学祭実施中〕
第5回	12月18日(土) 14時～16時	水道橋校舎 13階	大学紹介, 入試科目ポイントの説明, 入試概要説明, 個別相談等

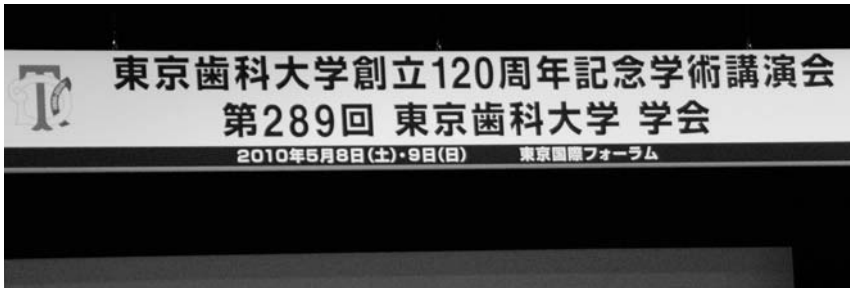
※内容、開催時間等、変更になることがありますので、事前にお問い合わせください。

問合せ先：東京歯科大学 教務課 TEL：043-270-3733 <http://www.tdcac.jp/>

# 東京歯科大学 創立120周年記念事業

「継承と発展」をメインテーマとした東京歯科大学創立120周年記念事業のうち120周年記念学術講演会が5月8日、9日に東京国際フォーラムで開催され、創立120周年記念式典・講演会・祝賀会が5月22日に開催されました。

## 東京歯科大学 創立120周年記念学術講演会



第1日目は、まず薬師寺 仁副学長による開会の挨拶の後、午前9時より「口腔科学研究センターシンポジウム」が開催されました。今回のテーマは「口腔アンチエイジングによる生体制御」と題して吉成正雄教授と橋本貞允准教授を座長として5名の研究者がそれぞれの分野の最先端研究を披露しました。まず本学歯周病学講座の洪川義宏准教授による「加齢に伴う顎関節の形態、機能維持に関わる遺伝子発現の解析」、本学解剖学講座の阿部伸一准教授による「筋幹細胞分化過程に必要な growth factor と negative regulator の相互作用」と続き、慶応義塾大学医学部薬理学講座の加藤靖浩非常勤講師による「細胞外環境制御によるアンチエイジング機構の解明」、本学微生物学講座の石原和幸教授による「加齢による口腔細菌叢の変化とその制御」、最後に総まとめとして本学臨床検査学研究室の松坂賢一准教授による「口腔組織の加齢変化」と題した講演が行われました。第1日目の午前中とあって参加者が少ないとの予測を裏切って、多数の人達が熱心に聴き入り活発な質疑応答が行われていました。続いて11時より本学客員教授で、東京理科大学総合研究機構の辻 孝教授による「未来の歯科医療としての歯科再生医療」と題した基調講演が行われました。歯科再生医療が話題になる中、実用化に向けて日夜研究が進められてはいるが、結局実現化されるのはこの先何十年も先になるであろうとのことでありました。この後昼食時には2会場で同時にランチオンセミナーが開催されました。ひとつは埼玉県開業の高柳篤史

先生による「歯みがきのソムリエを目指して—行動科学に基づいたブラッシング用具の選択と使い方」、もうひとつは鶴見大学歯学部歯科保存学第一講座の秋本尚武先生による「明日からの臨床を変える接着修復」で、どちらのセミナーも大変好評でありました。一方、ポスター会場では11時からポスター展示が始まり、各ポスターには関心を示す人達が徐々に集まっていました。

午後からは特別講演、国際シンポジウムが開催されました。まず特別講演として慶応義塾大学医学部生理学講座の岡野栄之教授により「iPS細胞を用いた再生医学・疾患研究」と題した講演が行われました。そして第1日目の締めくくりとして国際シンポジウム「40年を迎えたインプラントの光と影」と題し、本学臨床検査学研究室の井上 孝教授と口腔インプラント学講座教授の矢島安朝教授を座長として、まずオランダのナイメヘン大学の John A. Jansen 教授によって「Effect of dental implant surface on bone integration」、スイスのベルン大学の Rejina Mericske-Stern 教授による「Implants in an Aging Population: Changing Concepts?」、そして最後に本学臨床教授の武田孝之先生から「長期経過例から考えるこれからのインプラント治療」と題した講演が行われました。講演内容や講演の時間帯が良かったためか、数多くの出席者が熱心に聴講し、活発な質疑応答が繰り返られていました。

(取材 広報部 古澤成博)



2日目午前9時より「食に関わる口腔機構」をテーマとした国内シンポジウムが開催されました。東京歯科大学有床義歯補綴講座の櫻井 薫教授と東京歯科大学生理学講座の田崎雅和教授が座長を務め4名の講師の方が講演をされました。

はじめに東北大学大学院歯学研究科口腔診断学分野の笹野高嗣教授より「味覚とくに(うま味)感覚の重要性について」高齢者で味覚に異常があり唾液量が少ないかたは、乾燥で粘膜痛があるので酸味は刺激が強く使用できない。そこで唾液量の増加にうま味成分を使おうと試みている。うま味と唾液分泌は双方向に関連して、また消化吸収にも関係している。つづいて日本大学生物資源科学部獣医学科の杉谷博士教授により「唾液腺からの水とタンパク質の分泌の仕組み」について、東京都神経科学総合研究所の川野 仁先生より「脳の摂食調節機構とその異常」について、東京歯科大学生理学講座の澁川義幸講師より「食・テクスチャーの神経基盤：脳における口腔内体性感覚発現」について脳と口腔機能の関係について講演されました。

各講演が終わり壇上に講師の先生が並び、質疑応答に移りフロアーからも金子学長をはじめ多くの質問がされました。

2日目は企業展示、ポスター展示に加えポスター討論が各展示前で活発に行われていました。ランチョンセミナーは東京歯科大学水道橋病院・口腔インプラント科の関根秀志准教授による「インプラントの選択について」が東京歯科大学市川総合病院・オーラルメディスン・口腔外科学講座の木津康弘臨床講師が座長で行われました。また別の会場で埼玉県開業の篠木 毅先生による「歯科用レーザーの変遷(レーザーは日々の臨床をどのようにかえるか)」について、東京歯科大学千葉病院総合診療科の高瀬保晶准教授が座長で行われました。昼食をとりながらの講演とあり好評でした。



午後1時からのウィーン少年合唱団のコンサートでは同窓やその家族連れと多くの観客が訪れ皆その美しい歌声に満足していました。

その後に社団法人日本糖尿病協会後援により市民公開フォーラムが「本当に怖い歯周病！歯周病が糖尿病を狙っている」というテーマで座長を東京歯科大学市川総合病院糖尿病・内分泌センターの武井 泉教授と東京歯科大学歯周病学講座の山田 了教授が務め行われました。

まず慶應義塾大学客員教授・東京都済生会中央病院顧問の松岡健平先生より「歯周病と糖尿病の不思議な関係(シンフォニーになったメタボリックシンドローム)」と、広島大学大学院医歯薬学総合研究科展開医科学専攻顎口腔頸部医科学講座の西村英紀教授による「歯周病はお口の糖尿病」の講演がありました。つづいてコメンテーターとしてインドネシア元大統領夫人/国際文化人のデヴィ・スカルノ夫人の講演で市民公開フォーラムは締めくくられました。最後に東京歯科大学副学長井出吉信教授より閉会挨拶があり東京歯科大学創立120周年記念学術講演会は無事終了しました。

(取材 広報部 白田 準)



## 東京歯科大学 創立120周年記念式典・講演会・祝賀会



## 継承と発展

5月22日(日)東京歯科大学創立120周年記念式典が東京帝国ホテルにて開催されました。午後1時より本館3階富士の間にて受付が開始され、続々と参加者が集まり午後2時より厳粛な中、薬師寺 仁副学長が開式を宣し全員起立のもと国歌斉唱が行われ、熱田俊之助理事長より式辞が述べられました。つづいて祝辞を日本歯科医師会大久保満男会長より「明治時代は近代医療と近代医学をヨーロッパから取り入れることを政策として掲げていたが歯科はその中に入っておらず、国の力ではなく民間による、高山先生の高い意志と自立自存のもと近代歯科医学の教育機関を作り上げたことを忘れるべきではない。私の祖父は血脇守之助先生の門下生で幼い頃「歯科医師である前に人間であれ」との教えはよく耳にしていました。まさに専門的な知識を使ってどのように社会に貢献すべきか考えるのが専門家であり、このことは血脇先生の建学の精神に通ずるものであり、今後もそのような精神を持った歯科医師を世に送り出してほしい」と述べられました。つづいて日本私立大学連盟納谷廣美副会長が祝辞を述べられ、大山萬夫会長は三笠宮両殿下をお迎えし記念式典を催す事ができたことを同窓として誠に喜ばしいことであり、また母校に対して過去の多くの苦難を乗り越え同窓を排出されたことへ感謝の意を表しました。同窓会員9500有余名とともに更なる大学の発展を願い同窓として団結し支援する意向を述べ、水道橋移転と更なる発展のため列席の方々に協力をお願いし祝辞とされました。そして延世大学校歯科大学 Chung Moon-kyu 学長、モスクワ国立医科歯科大学 Oleg Yanushevich 総長と祝辞がつづきました。その後登壇者、来賓の紹介に続き建学者顕彰を熱田理事長より血脇家、加藤家へ授与、母校永年勤続者に表彰状と記念品が贈られました。つぎに全員による校歌斉唱が行われ金子学長よりお礼の挨拶がありました。最後に井出吉信副学長が閉式の辞を述べ創立120周年式典は無事終了しました。

引きつづき創立120周年記念講演が本館2階孔雀の間にて行われました。「歯科大学の誕生」と題して水川秀海先生が講演をされました。「血脇先生の夢は学位を持った教員の養成に生涯をかけ大学に昇格することでした。奥村学長が昭和21年7月19日に我が国初の歯科大学を誕生させ、福島学長が昭和33年3月25日に単科歯科大学初の大学院設置を実現させました。母校の学風、伝統は未来に高い目標を定め大学と同窓会が一体となって前進をすることで120周年のタイトルでもある継承と発展の由縁であると思います」と締めくくられました。続いて「東京歯科大学の今後の発展」と題し金子学長より講演がありました。現在の競争の時期を乗り越え母校が創立150周年を迎えるために現在をどのように運営して行くべきかを解説をして頂きました。その後記念DVD放映後祝賀会の開催となりました。開会の辞を石井千葉病院長が述べ熱田理事長、金子学長挨拶のあと来賓の祝辞へと続けました。その後全員起立のもとに三笠宮両殿下のご臨席を賜り、一瞬場内が厳粛な雰囲気になりました。ご高齢でありながらもお元氣な三笠宮殿下のご挨拶と乾杯のご発声を賜りました。

ひきつづき祝宴に移り、東京歯科大学管弦楽による演奏とともに参加者一同おいしい料理を堪能しながら祝宴の喜びを満喫していました。祝賀ムードは最高潮に達し、時の過ぎるのもしばし忘れていました。終宴に近づき校歌斉唱の歌声はホールに響き渡り母校のこれからの勢いを実感し、金子学長のお礼の言葉、安藤暢敏市川総合病院病院長の閉会の辞で締めくくられました。

多くの参加者が集まり盛大に行われた120周年記念式典・講演会・祝賀会は無事終わりました。そして、これから更なる母校の発展の始まりでもあります。同窓、大学と一致団結をして150年、200年とまたそれ以上長く続くことを願っています。

(取材 広報部 白田 準)

## 東京歯科大学創立120周年記念祝賀会 理事長挨拶



本日、ここに三笠宮、同妃両殿下のご親臨を仰ぎ、東京歯科大学創立120周年記念祝賀会を開催できますことは、私どものこの上ない光栄であり、慶びであります。また本学に対して日頃格別のご協力ご支援をいただいております内外のご来賓の方々、ならびに全国同窓会、ご父兄および関係各位多数のご臨席を賜り、法人を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。

さて、本学の歴史のなかで大学の宝と言えるもの一つに「高雅学風徹千古」と書かれた扁額へんがくがございます。これは野口英世博士から、関東大震災で校舎が壊滅状態にあった本学に対して、たとえ甚大な被害にあっても”高雅で気高い学風は、決して失われることなく、永遠に続くであろう”と恩師の血脇先生を励ますために、はるか遠国より贈られた揮毫きごうであります。

創立120周年の節目に立ち、私どもは、野口博士の思いを改めて胸に刻み、高山先生、血脇先生をはじめとする多くの先達が築かれた歴史と伝統を継承し、東京歯科大学、そして歯科医学、歯科医療の未来に向け、さらなる一步を邁進してまいりたいと、決意を新たにしているところでございます。

ご来賓ならびに関係各位におかれましては、今後も、本学への一層のご支援のほどをお願い申し上げ、私の挨拶にかえさせていただきます。それではささやかではございますが、祝宴をお楽しみ頂けると幸甚に存じます。本日は誠にありがとうございました。

## 東京歯科大学創立120周年記念祝賀会 学長挨拶



三笠宮殿下、妃殿下のご臨席を仰ぎ、本日、東京歯科大学創立120周年記念祝賀会を開催できますことは、本学にとりましてこの上もない栄誉であります。また、本日ご臨席頂きましたご来賓の方々、ならびに同窓の先生方、ご父兄および関係各位の皆様からは、常日頃より大学へ温かいご支援を賜っておりますことを、深く感謝申し上げますとともに、120周年を迎えた慶びを皆様方と分かち合いたいと思います。

本学の創立120周年記念行事のメインテーマである「継承と発展」の意味するところは、本学の伝統を未来へ継承し、歯科界の先導としてさらなる発展を遂げていく本学の未来像であります。

時代は変われども、大学の本質は、人材育成であり、その責務は有為な人材の育成であります。「歯科医師たる前に人間たれ」という本学の建学の精神に基づいた教育を柱に、希望に満ちた将来展望を描いていくことが重要であると考えております。創立120周年をその契機ととらえ、本学関係者一人一人が創造性を発揮し、熱意と柔軟性を持ちながら希望に満ちた将来展望を描き、グローバルな視点で次の時代へ繋げていきたいと考えております。

ご来賓ならびに関係各位の皆様には、今後ともより一層のご指導とご支援を賜り、東京歯科大学発展のためにご協力頂ければ幸いです。最後になりますが、本日ご臨席を賜りました皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、私の挨拶にかえさせていただきます。

平成22年5月吉日

## 同窓会会員各位

学校法人東京歯科大学 理事長 熱田 俊之助  
東京歯科大学 学長 金子 讓

### 創立120周年記念諸行事へのご協力に対するお礼のご挨拶

平素は、母校に対して格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この度開催致しました母校創立120周年記念行事としての記念学術講演会・第289回東京歯科大学学会および記念式典・祝賀会は、お陰様をもちまして盛会裡に終了することができました。これも偏に同窓会会員各位のご協力の賜と心からお礼を申し上げます。

特に、5月22日の記念祝賀会では、三笠宮殿下、同妃殿下のご臨席を仰ぎ、厳粛かつ盛大に挙行することができました。

これは大学にとりまして、また、同窓会会員の皆様にとりまして誠に名誉なことであり、喜びにたえません。

この創立120周年を契機として、さらに東京歯科大学の発展を期するとともに、歯科医学教育の充実と歯科医療の発展に努力いたす所存でございます。

今後とも母校に対するご支援とご高配を賜りますようお願い申し上げ、お礼のご挨拶といたします。

## 東京歯科大学 創立120周年祝賀会 記念品

東京歯科大学創立120周年記念

DVD：「近代歯科医学教育を拓く」

血脇先生の動画も入っています。



創立120周年 記念切手シート



# 支部のうごき

## 掲示板

\*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-tdc-alumni.jp> にも掲載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日 時	演題及び講師 又は事業内容	会 場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
学術講演会 平成22年 7月21日(水) 午後7時	「歯科用CAD/CAMを応用したオールセラミック修復」  小峰 太助教 (日大歯学部補綴Ⅲ)	三井住友海上ビル14F 第9会議室 千代田区神田駿河台 3-9 TEL 03-3259-3854	千代田支部 連絡先 担当・太田和秀 TEL 03-3259-3853	支部会員 同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成22年 7月30日(金) 午後7時～	「長期経過からみた欠損歯列の流れ」  宮地建夫先生 (東歯大臨床教授)	浅草歯科医師会事務所 〒111-0032 台東区浅草1-4-7 勉強堂ビル4階 TEL 03-3841-5154	浅草支部 連絡先 田 昌文 TEL・FAX 03-3874-4565	支部会員 同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成22年 7月31日(土)	「接着を応用する補綴治療ー接着ブリッジとレジンコアー」 佐藤 亨教授 (東歯大クラウンブリッジ補綴学講座)	ホテル マリックス 宮崎市千草町15-8 TEL 0985-28-6161	宮崎県支部 連絡先 専務理事・今井弘治 TEL 0985-28-5577	同窓会員
学術講演会 平成22年 8月1日(日) 午後1時～ 午後4時	「日常歯科臨床と咬み合わせ」  菅野博康先生 (宮城県開業)	愛知県歯科医師会館 名古屋市中区丸の内 3-5-18 TEL 052-962-8020	愛知県支部 連絡先 学術担当・橋本雅範 TEL 052-811-3033	同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成22年 8月28日(土)	「複雑な補綴を成功に導く臨床的基準」  山崎長郎先生 (東京都開業)	ホテル プエナビスタ 松本市本庄1-2-1 TEL 0263-37-0111	長野県連合会 連絡先 中信支部 担当・鴨居弘樹 TEL 0263-52-0118	支部会員 同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成22年 10月19日(火) 午後7時	「難治性根尖性歯周炎の原因とその対処法」  古澤成博准教授 (東歯大口腔健康臨床科学講座)	東武ホテルレバント東京 墨田区錦糸1-2-2 TEL 03-5611-5511	深川支部 連絡先 総務・中澤 章 TEL 03-3846-4618	同窓会員
学術講演会 平成22年 10月20日(木) 午後7時	「審美歯冠修復ーセラミック修復とダイレクトボンディングの融合」  大谷一紀先生 (東京都開業)	三井住友海上ビル14F 第9会議室 千代田区神田駿河台 3-9 TEL 03-3259-3854	千代田支部 連絡先 担当・太田和秀 TEL 03-3259-3853	支部会員 同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成22年 11月13日(土)	「メタボリックシンドロームと歯周病」  中川種昭教授 (慶應義塾大学医学部)	未定(山形市近隣予定)	山形県支部 連絡先 担当・歯科医師会 TEL 023-632-8020	支部会員 同窓会員 歯科関係



## 北海道地域支部連合会

### 通常総会（小樽）を終えて

平成21年7月11日(土)、平成21年度東京歯科大学同窓会北海道地域連合会通常総会が、小樽市ホテルグランドパークにおいて全道から74名の会員が参加し開催されました。

来賓として大山萬夫同窓会長、金子 譲学長、柳 清二同窓会副会長にご参加頂きました。

長谷川 健小樽支部長による開会の辞、校歌斉唱に続き、昨年度他界された武田俊信先生（札幌）・向山英三先生（函館）・北恭子先生（旭川）・服部幹夫先生（釧路）・杉山忠憲先生（札幌）・山口和夫先生（十勝）に黙祷が捧げられました。

来賓の紹介に続き、針谷 毅連合会会長の挨拶があり、次いで来賓の大山萬夫同窓会長より、ご挨拶いただき、同窓会本部はこの1年間を同窓会の原点と今後にあるべき姿を考える年とし、事業等検討委員会を立ち上げ、会員に対し、より一層の満足を得られるような同窓会にしてい

きたいと述べられました。

次いで金子 譲学長より、昨年度の本総会を踏まえ、大学と同窓会が積極的な論議をしていく中で、お互いの気持ちを通わせ協力しあって、低迷する歯科界の建て直しを望むという話がありました。

その後米寿のお祝いとして麻生謙介先生（札幌）、喜寿のお祝いとして山田 進先生（空知）・渋川義昭先生（旭川）・松崎哲男先生（十勝）に記念品、渋川義昭先生（旭川前支部長）・和田大海先生（十勝前支部長）に感謝状がそれぞれ贈呈されました。

議事に入り、議長に西川忠弘先生（函館）、副議長に市川 徹先生（旭川）が選出されました。議事は最初に平成20年度の会務報告として杉山裕先生（札幌）より庶務報告・事業報告、次いで会計報告として森田康夫先生（札幌）より平成20年度収入支出報告、監査報告として杉村俊之先生（札幌）より会計監査報告

があり、それぞれの内容に対し全員の拍手を持って承認されました。

議事に引きつづき、次期総会開催地（開催主管は連合同窓会）である札幌支部長麻生 博先生よりご挨拶があり、最後に佐藤英俊連合同窓会副会長の閉会の辞をもって通常総会は無事終了しました。

引きつづき、金子学長より、大学現況報告があり、ここ1年間での大学での主な出来事として、学内においてはインプラント学講座の新設、北京大学口腔医学院との姉妹提携、保存学教室を2講座に変更等、対外的には新聞等で取り上げられた研究費の不適切経理処理に関する説明とお詫び、国家試験の合格基準（臨床の充実）の今後の変更が検討、今後の入学者定員削減の検討を迫られていること、私大の国庫補助金が毎年1%ずつ削減されている等、多くの私立歯科大学での入学者定員割れが起きている中で、編入学生の受け入れの緩和、センター試験の導入、



学生募集の宣伝の強化等を行っている、国家試験の合格者の現状に関しては、合格率の大学格差が広がっていること、試験問題の内容が大きく変化していることなどの説明がありました。同窓会での最大の関心事である、大学の水道橋への移転についての説明と現状、今後のスケジュールとその必要性についてのお話をいただきました。参加した会員は学長のお話に一応の理解を示しておりました。

その後、場所を移して懇親会が開

催されました。長谷川 健小樽支部長により開会の辞、針谷 毅会長の挨拶、喜田正史連合会名誉会長による乾杯により宴が始まりました。テーブルには卒業年度ごとに分けられ、旧交を温め、終始和やかな雰囲気の中進められました。また、ホテル自慢の小樽の海の幸を盛り込んだ豪華なフルコース料理には参加者一同、舌鼓をうっていました。午前に行われたゴルフコンペの成績発表、恒例のビンゴ大会と続き、校歌斉唱、万歳三唱の後、千葉 亘連合副

会長の閉会の辞をもって終了となりました。

主管された小樽支部の先生方におかれましては、ご苦勞も多かったことと存じます。本当に楽しいひとときを過ごさせていただいたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(船本能教 記)

連合会報発行記事を13ページに掲載

## 青森県支部

### 総会および学術講演会

平成22年度同窓会の定時総会および学術講演会が3月6日(土)午後3時からホテル青森において開催されました。来賓として同窓会より副会長の矢崎秀昭先生、大学より歯科麻酔学分野准教授の福田謙一先生をお迎えいたしました。総会は小林敏彦常任理事の司会で始まり、松山支部長の挨拶、ご来賓の矢崎副会長からは同窓会の近況、福田先生からは大学の近況と創立120周年の行事等についてのお話をいただきました。議長には住吉辰郎先生を選出し、平成21年度逝去されました渡邊沙流先生、小田嶋 亮先生、熊谷 淳先生、長内滋夫先生に黙祷を捧げました。続いて各報告がありました。その中で退会者についての報告がありましたが、本部へ会費免除の申請手続きをすることといたしました。議事に入り1号議案から4号議案まですべて承認可決されました。昨年の総会において、支部慶弔共済規定の負担金の見直しの提案がありましたが、もう少し現状のままで様子を見

ることになりました。

学術講演会は歯科麻酔学分野准教授の福田先生より「歯科医院における痛みの管理」―診断・治療が困難な痛みへの対応―と題してご講演をいただきました。歯科診療所でも遭遇するであろう口腔顔面領域に発生する特殊な痛みに対してどのように対応するか薬剤を含めた疼痛管理に

ついて大変わかりやすくお話をいただきました。学術講演会終了後、記念写真撮影を行い、顧問の清藤勇也先生の乾杯のもとに懇親会を開宴し、時の過ぎるのを忘れ楽しい一時を過ごしました。最後に校歌を声高らかに歌い無事終了いたしました。

(本田富彦 記)



## 横浜西部支部



### 総会・懇親会

平成22年4月10日(土)、旭区の佐藤隆幸君、遠藤盛孝君、荻原 功君、高階光博君が幹事となり崎陽軒本店において、総会が開催された。当日は28名の会員が参加した。来賓として、加藤木 健神奈川県支部連合同窓会会長と、金子 讓学長をお迎えして行われた。

午後7時より、荻原 功君の司会のもと総会が開かれた。初めに島田英明支部長より、開催の挨拶がなされた。続いて、金子 讓学長より、

大学の現況報告、又、今年为国家試験結果、大学の将来の展望等、スライドを使い、ご講演いただいた。続いて、杉山紀子神奈川県支部連合同窓会副会長より、県連合同窓会の報告がなされた後、島田英明支部長より、平成21年度会務報告がなされた。続いて、荻原 功君より、会計報告がなされた後、新入会員の渡瀬秀彦君の紹介・挨拶、新会計理事の水口浩司君の挨拶がなされた。その後、本部同窓会より、パソコン情報ネットのお知らせ、相庭常人君よ

り、医療保険点数改定についての説明がなされた。最後に加藤木 健神奈川県支部連合同窓会会長より、挨拶がなされた。

総会終了後、佐藤卓朗君の乾杯の発声で宴に入った。宴の途中、佐藤卓朗君、品川 明君の傘寿、山村良一君、茂木知治君の還暦が祝われた。宴会は、皆、笑顔が絶えず、楽しい一時を過ごした。最後は皆で、記念写真を撮り、宴会は終了となった。(中島清司 記)



## 川崎支部

### 平成21年定時総会・講演会・忘年会開催の報告

平成21年12月5日(土)午後3時より芝浦にある料亭「牡丹」にて定時総会・講演会・忘年会が開催されました。

定時総会は杉之内俊郎専務理事による司会のもと古賀副会長・飯田会長による挨拶が行われ、続いて議長は中島善和先生が選出されて開催されました。

報告事項として①平成21年会務報告(逝去会員一戸俊治先生への黙祷、敬老祝賀会員に該当する者として古希 島 重夫、喜寿 丹沢之彦、傘寿 杉之内芳郎、米寿 千葉崇亮、合計4名の先生への表彰)、②平成21年会計現況報告、続いて議案として①平成21年決算について、②平成22年事業計画案、③平成22年予算案、④新役員異動として古賀克隆副会長が次期会長に選出され全員一致可決となりました。

総会終了後、俳優、音楽エッセイスト、司会など幅広い活動で有名な小澤幹雄先生(世界的指導者として有名な小澤征爾さんの弟)を講師と

してお迎えして『小澤幹雄のやわらかクラシック“兄征爾と小澤ファミリーと川崎”』を演題に、講演が行われました。戦後の厳しい情勢の中、小澤征爾さんと共に数々の苦勞を乗り越えながら世界的音楽家として生き抜く様々なエピソードを、ユーモア溢れる口調で熱演いただきました。

講演会終了後は飯田会長以下会員32名にて忘年会が開催されました。古賀副会長、飯田会長の挨拶に続いて、来賓として井田川崎市歯科医師会会長、田中川崎市歯科医師連盟理事長、加藤木県連合同窓会会長による挨拶が行われました。また敬老会員(古希 島 重夫)、新入会員2名の先生(昭58卒一戸沙織、平6卒永嶋久美子)らによる挨拶が行われ、歓迎ムードが盛り上がる中、昨年に続き最長老会員の大川重保先生による詩吟が詠じられ、大拍手で酒宴はさらなる盛り上がりみせる一幕もありました。締めとして全員で校歌斉唱が行われ、日頃の疲れも吹き飛ばす大盛会のうちに幕を閉じました。

忘年会終了後は、飲み足りない者達が集まり赤坂にて2次会が行われました。深夜まで歌い続けた最後に、飯田前会長へ花束の贈呈、古賀次期会長とがっちり握手しさわやかに閉幕となりました。

参加者は、大川重保(昭19卒)、大塩英雄・中島善和(昭27卒)、中川宏明(昭33卒)、原島 稔(昭34卒)、飯田涼二・神野叔人(昭35卒)、島重夫(昭40卒)、古賀克隆(昭42卒)、関 暁子(昭43卒)、岡本圭三・松島秋良(昭46卒)、平尾文昭・横山信行・松本 純(昭48卒)、大塚 隆(昭50卒)、山口一美・玉置義克(昭56卒)、鈴木幸一・松村照代(昭57卒)、紺野義之・一戸小織(昭58卒)、中島信也・鈴木育也(昭59卒)、中野昌則(昭60卒)、杉之内俊郎・大塩美樹子(昭61卒)、杉田穂高(昭62卒)、川越元久(平1卒)、永島久美子・島 夏夫(平6卒)です。(敬称略)

(島 夏夫 記)



## 滋賀県支部

### 平成22年度総会 および学術講演会開催

東京歯科大学同窓会滋賀県支部総会が、さる平成22年2月7日、「琵琶湖ホテル」にて開催された。当日は冬晴れの天気であり、総勢21名の参加があった。最初に校歌が斉唱され物故会員に黙祷がささげられた。尾松素樹理事が司会を担当、立木健副支部長の開会の辞に続いて北村眞也支部長が挨拶を述べられた。続いて昨年、春の叙勲に際し長期にわたる学校歯科保健活動が認められ瑞宝双光章を授章された住井泰之先生に対し、会員一同から記念品が贈呈された。その後議事に入り、平成21年度の事業報告および会計報告がなされ、引き続き平成22年度の事業計画の協議を行い承認された。本年は東京歯科大学近畿連合同窓会の開催当番県に当たっているため、会務運営の詳細にわたって協議がなされた。各担当係の分担に始まりタイム

スケジュール詳細、当日までの各種準備事項などが協議され、承認された。また、学術講演会として東京歯科大学同窓の江里口 彰先生にお越し頂き「歯科治療と全身の関わり」と題した講演を行っていただく方向で一致した。一方、本学同窓会では種々の理由から連合同窓会開催を原則1年1回（実質複数年に一回の開催）に改正する方向性を示していることに対し、老年会員より現状維持の要望が出された。また、本来の同窓会のあり方として同年代会員の出欠状況が早めに確認できるシステムを立ち上げるよう要望が出された。最後に藤居正博副支部長による閉会の辞で総会は締めくくられた。休憩を挟んだ後、引き続き懇親会に移った。藤居正太郎先生の乾杯の発声で宴が始まり、和やかな時とともに同窓の親睦を深めた。宴の中で、滋賀県支部の島野（旧姓横山）達也先生が自ら作詞された東京歯科大学逍遙



歌「夕日は沈み」のエピソードを披露され、老いは当時懐かしみ、若きは当時に思いを馳せた。非常に興味深いお話ばかりで東京歯科大学の伝統の重さを感じ入った。続いて東京歯科大学近畿連合同窓会においても披露する予定の「夕日は沈み」を北村眞也支部長の音頭で全員で合唱した。その後、参加者全員で集合写真を撮影し全ての日程を終了した。東京歯科大学のよき伝統である、年齢を超えた結束力の強さはまだまだ健在であると実感した一日であった。

(住井浩剛 記)



## 『相馬地方』

### 福島県

福島県は、犬の横顔にも見えるような地形を三分割するように、奥羽山脈と阿武隈山地が縦走しています。山並みによって区分された三地域は、磐梯山やスキー場で知られる会津地方、郡山や福島のある中通り地方、そして小生の住いする浜通り地方に分けられています。40年程前になりますが、本学に入学したときには、福島県は山国なので、スキーがよほど上手だと思われて、それを打ち消すのに小稿のように説明を始めたことを思い出しています。当地は、東を太平洋に面し、雪国とは縁遠く降雪頻度も関東と同程度で、温暖化の影響なのか、幼少時と比べるとその量も少なくなってきています。

浜通りのそのなかでも、北に位置する相馬地方は、ご年配の方には多少馴染みがあるかもしれませんが、「相馬盆唄」や「相馬流れ山」と

いった民謡の発祥の地です。また、特徴ある年間行事としては、盛夏に行われる無形文化財の「相馬野馬追い」があります。この祭事の由来は、かつて関東の地に覇を誇った平将門を祖とする相馬氏が、武を練る為に、野に馬を放って敵に見立て合戦の訓練をしたことがその始まりとされ、一千年の歴史を有すると言われております。「出陣式、騎馬行列」にはじまり、「甲冑競馬」500騎程が野馬原にて妙見神社の神旗を奪い合う「神旗争奪戦」、古来の様式を色濃く伝え、素手で野馬を捕らえ神前に奉納する「野馬懸け」で構成され三日間をかけて執り行われます。この時期には、先祖伝来の甲冑を身に着けた武士が溢れ、戦国時代へとタイムスリップします。

また、当地の特産としては、海に面しておりますので、「ひらめ」や「ほっき貝」などは、原釜産や常磐

産と言うブランドで出荷されており、なじみがあるかもしれません。さらには、秋になりますと東北有数の鮭の遡上数を誇る「泉田川」が流れています。

伝統的工芸品としては、300年ほどさかのぼる伝統をもつ「大堀相馬焼き」があげられます。青ひびの嵌入と馬の図柄が特徴の焼き物ですが、近年は青磁様とか民芸調の物も製作されています。

(昭和51年卒 清信成一 記)



# クラス会だより

## クラス会開催日程

八 紫 会 (昭和35年卒)	と き	平成22年10月 9日(土)・10日(日)・11日(月)
	と ころ	総会会場 横浜中華街「萬珍樓」
十 期 会 (昭和37年卒)	と き	平成22年10月10日 (日) 18:30~
	と ころ	日本外国特派員協会 (外人記者クラブ)
富 巳 会 (昭和40年卒)	と き	平成22年10月 3日 (日) 17時~21時
	と ころ	京王プラザホテル (新宿)

## 弥 生 会

昭和54年卒

### 「川口 浩君を囲む会」

春うらかな日との3月21日(日)、東京ドームホテルにおいて、昨夏見事に衆議院議員に当選した川口 浩君を招いて、弥生会(昭54卒)が中心となり上記の会を開催した。来賓には、熱田俊之助理事長、金子 讓学長、大山萬夫同窓会長、島村 大同窓会理事を迎え、盛大に行われた。片山 隆君の司会により今村嘉宣弥生会代表が開会の辞を述べ、川口君が政治家を目指し茨城県会議員からどのように衆議院議員に立候補することになったかなどの経過が説明された。

次に来賓より挨拶をいただいた。熱田理事長は、本学出身の歴代の国会議員を紹介し、ユーモアを踏まえたお話で川口君を激励した。金子学長は120周年を迎えた母校への協力について述べた。大山会長は、川口君の人柄に触れ、これからの活躍と弥生会へのエールを行った。

いよいよ川口君の挨拶へと移った。衆議院議員となり、これまで感じた行政の雰囲気や官僚、役人の組織について語り、これからの施策を披露した。議員となった今も訪問診療を続け、現場を体感しながら国政につなげるという努力は並大抵のものではないが、歯科医療の現状を憂い、強い信念で国政に立ち向かう姿

勢は実に頼もしいものであった。思い起こせば昔、彼が弥生会代表であった頃、同窓会評議員会での発言が物議をかもしたのも、彼の体制に迎合しない毅然とした信念があったればこそと推察される。これからの彼の歯科医療を通しての国政での活躍に期待したい。

呂 英美君から花束贈呈があり、三友和夫父兄会副会長の乾杯で祝宴となった。歓談の後、川口君の父上から挨拶を頂戴した。次に島村 大理事より、川口君を応援するにあたり弥生会の対処についてのご指導いただいた。続いて同級生からの祝辞に移った。佐藤 亨教授、末石研二教授を始め、中西久人君、稲野順治君、伊藤 邦君、大竹淑子君、小澤

夏生君、伊禮祐子君、真下泰彦君らによる学生時代の暴露大会となったが、最後の一線を越えない辺りがそれなりに大人になった弥生会会員というところであろうか。おそらく少しは川口君の力付けになったであろうこの会も、話が尽きずたいへんな盛り上がりを見せたが、柴原孝彦教授の締めにより閉会となった。

(山 滋 記)



# すいどうぼし

## 東京都女性歯科医師の会 が発会しました

平成22年4月25日、東京都女性歯科医師の会、第一回定時総会が、飯田橋インテリジェントロビ・ルコにおいて行われました。冒頭、司会者高野博子先生（昭55年卒）が、「東京都女性歯科医師の会は、女性歯科医師ならではの喜びや悩みを皆で分かち合い、プラスのエネルギーに変えていこう！をコンセプトに発会致しました。」と開会宣言があり、当日98名が参加されました。

まず、発会の経緯を発起人代表鈴木千枝子（昭53年卒）が次のように報告しました。

「近年、歯科大学卒業生の約半数近くを女性が占めるという現状に伴い、就職、結婚、出産、介護などにより、歯科医師としての力を十分に発揮できず、また、様々な問題や悩みをかかえている先生方も少なくありません。そこで、昨年8月に第一回準備委員会を立ち上げ、東京都の独自性を考慮し検討を重ねた結果、年齢、経験、大学の枠を取り去った

リベラルでビビッドな女性歯科医師の会が発足しました。多くの先生方が参加しやすいように、各歯科大学同窓会を窓口で会員を募ることとしました。

総会では、議案として会則が承認された後、平成22, 23年度の会長に山田茂子先生（昭47年卒）が推薦され、満場一致で承認されました。

選任を受けた山田茂子会長は次のように挨拶されました。

「本会の活動目的は女性歯科医師が生涯安心して仕事を続けていくために必要な事業を行うこと、次世代の育成にも積極的に取り組んでいくこと、自由で明るく活気のある会を目指すことで、初年度はしっかりした組織作りをするとともに、幅広い世代から、同窓や地域の枠を超えて多くの先生方の参加を募り、会員の声を聞きながら会務を進めていきたい。」と抱負を語りました。

総会終了後、記念写真を撮影、その後、参議院議員石井みどり先生の



「輝く女性の生き方」をテーマに講演が行われました。

続いて懇親会に移り、年齢、同窓の枠を越えたおしゃべりで賑わう中、「母」をテーマにした歌の演奏でさらに盛り上がり、和やかで楽しいひとときを過ごすことができました。

東京都にお住まいもしくは、勤務地の方の中で、このような気さくな会を覗いてみようと思われる先生方は、是非とも事務局までご一報いただけますよう、お待ちしております。

（鈴木千枝子 記）

事務局

〒125-0062

東京都葛飾区青戸6-4-23

（医）高慈会高野歯科クリニック

E-mail takano-dcl@sunny.ocn.ne.jp





# 「祝いの詩」(投稿)

片倉 恵男 (昭和39年卒)

母校創立120周年記念に当たり作った愚作の詩に、地元の後輩が曲を付けてくれ、武蔵野音大ピアノ科卒の奥様が編曲をしてくれたものです。

## 母校創立百二十周年記念

### 祝いの詩

作詞 片倉 恵男 (昭39卒)

作曲 伊佐津 和朗 (昭63卒)

編曲 伊佐津 さゆり (武蔵野音大卒)

#### 〈TDCの旗のもと〉(一〜四)

一 高山紀斎興したる

齒科医学院建学を

血腸・奥村受け継ぎて

榮えし母校の礎を

築きて百二十年

TDCの旗のもと

我が同窓は轟けり

#### 〈高雅学風〉

世紀を越えて幾千の

我が同窓は軒昂に

進取の気概高くして

「高雅学風」誇るなり

母校・同窓同心し

東歯の理念・伝統を

次代の朋に継承ゆかん

三 水道橋に佇めば

今昔数多変われども

三崎神社に駅舎にも

面影偲び夢遙か

遷りて百二十年

TDCの旗のもと

我が同窓は集いけり

四 校旗は燦とひるがえり

医は仁なりと師の教訓

母校の伝統矜持して

いざや譁えん諸共に

拓きて百二十年

TDCの旗のもと

我が同窓は謳いけり

#### 〈お、我が母校〉

TDC TDC

TDC TDC

お、我が母校



# 庶務日誌

5月

1) 理事会

5月12日(水) 第3回常任理事会

2) 委員会

5月1日(土) 総務関係打合せ  
 7日(金) 事業系ワーキンググループ  
 7日(金) 学術部委員会(運営委員会)  
 10日(月) 広報部委員会(会報編集)  
 10日(月) 学術部委員会(プログラム委員会)  
 11日(火) 学術部委員会(運営委員会)  
 14日(金) 学術部委員会(運営委員会)  
 14日(金) 厚生部委員会  
 17日(月) 学術部委員会(運営委員会)  
 18日(火) 情報部委員会  
 20日(木) 同窓会改革検討特別委員会  
 21日(金) 学術部委員会(プログラム委員会)  
 24日(月) 学術部委員会(企画委員会)  
 25日(火) 学術部委員会(運営委員会)  
 26日(水) 学術部委員会(研究部委員会)  
 27日(木) ワーキンググループ打合せ

3) 出張

5月19日(水) 千代田支部学術講演会 講師・宮崎真至先生(日本大学歯学部歯科保存学I教授)  
 22日(土) 東京歯科大学創立120周年記念式典, 記念講演, 記念祝賀会 大山会長出席  
 29日(土) 四国地域支部連合会総会 梅村副会長, 高橋専務理事, 久保田理事出席  
 学術講演会 講師・櫻井 薫教授(母校)  
 29日(土) 秋田県支部総会 宮地副会長出席  
 学術講演会 講師・山田 了教授(母校)

4) 事業

5月16日(日) TDC 卒後研修セミナー〔卒研セミナー(No.3口腔内から何を讀み何を考えるか)〕  
 22日(土) 地域支部連合会会長と同窓会役員との懇談会

6月

1) 理事会

6月12日(土) 第3回理事会

2) 委員会

6月1日(火) 学術部委員会(運営委員会)  
 1日(火) 総務関係打合せ  
 3日(木) 学術部委員会(運営委員会)  
 3日(木) 厚生部委員会ゴルフ大会委員会  
 4日(金) 事業系ワーキンググループ  
 7日(月) 保険部委員会  
 8日(火) 総務関係打合せ  
 11日(金) 広報部委員会(会報企画)  
 16日(水) 学術部委員会(プログラム委員会)  
 21日(月) 学術部委員会(運営委員会)  
 22日(火) 情報部委員会  
 22日(火) 学術部委員会(将来像検討委員会)  
 24日(木) 同窓会改革検討特別委員会  
 28日(月) 学術部委員会(企画委員会)  
 29日(火) 学術部委員会(運営委員会)

3) 出張

6月5日(土) 九州地域支部連合会支部長会 濱田理事出席  
 5日(土) 和歌山県支部総会  
 6日(日) 東海地域支部連合会支部長 梅村副会長, 宮田理事出席  
 9日(水) 渋谷支部総会 関副会長出席  
 12日(土) 東北地域支部連合会総会 片倉副会長, 高橋理事出席  
 学術講演会 講師・河田英司教授(母校)  
 26日(土) 福島県支部総会 関副会長出席  
 学術講演会 講師・坂本春生先生(東海大学医学部口腔外科教授)  
 26日(土) 川崎支部学術講演会 講師・水口 清教授(母校)

4) 事業

6月13日(日) TDC 卒後研修セミナー〔卒研セミナー(No.4歯の審美的回復)〕

## 逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 14 卒	浅野 實 (97歳)	21. 6. 27
茨城県支部	〒302-0034 取手市戸頭6-29-6	
●昭 4 卒	加藤 繁 夫 (101歳)	20. 1. 3
栃木県支部	〒321-0155 宇都宮市西川田南1-4-11	
●推薦会員	大高 義 廣	2. 6. 8
世田谷支部	〒154-0017 世田谷区世田谷3-20-10	
●昭 15 卒	吉井 久 (91歳)	22. 2. 21
杉並支部	〒107-0062 港区南青山4-18-8-703	
●昭 63 卒	小林 久 恭 (46歳)	22. 4. 8
山形県支部	〒997-0827 鶴岡市美原町5-41	
●昭 17. 9 卒	矢ヶ崎 康 (90歳)	22. 4. 2
中信支部	〒390-0831 松本市井川城1-5-21	
●昭 3 2 卒	奥 欽 也 (78歳)	22. 4. 8
岡山県支部	〒708-0881 津山市南町1-87-3	
●昭 24 卒	大坪 賢 二 (81歳)	22. 4. 16
山形県支部	〒990-0401 東村山郡中山町大字長崎144	
●昭 15 卒	古屋 富 雄 (91歳)	22. 4. 20
山梨県支部	〒405-0006 山梨市小原西742	
●昭 50 卒	水津 博 (59歳)	22. 4. 22
中野支部	〒165-0034 中野区大和町1-35-5	
●昭 9 卒	牟田 栄 (99歳)	22. 4. 24
栃木県支部	〒321-4217 芳賀郡益子町益子2289	
●昭 28 卒	三宅 昭 典 (81歳)	22. 4. 25
広島県支部	〒720-0834 福山市明王台5-12-10	
●昭 19. 9 卒	関戸 利 夫 (90歳)	22. 4. 29
神奈川相北支部	〒220-0206 相模原市緑区青山2525-4	
●昭 24 卒	愛知 正 昭 (82歳)	22. 4. 29
渋谷支部	〒150-0043 渋谷区道玄坂2-27-5	
●昭 13 卒	斎藤 光 生 (93歳)	22. 5. 4
埼玉県支部	〒350-1335 狭山市柏原3161-49 狭山ニュータウン76-2	
●昭 27 卒	丸山 良 平 (80歳)	22. 5. 9
札幌支部	〒064-0825 札幌市中央区北五条西29-1-1 宮の森グランドハイッツ1101	
●昭 10 卒	椎貝 敏 夫 (96歳)	22. 5. 7
栃木県支部	〒320-0026 宇都宮市馬場通り1-1-20	
●昭 34 卒	松崎 哲 男 (76歳)	21. 12. 24
十勝支部	〒080-0010 帯広市大通南9-2	
●昭 44 卒	渡辺 武 磨 (72歳)	22. 4. 29
愛知県支部	〒441-3617 田原市福江町字原ノ嶋40	
●昭 22 卒	矢島 忠 夫 (84歳)	22. 5. 16
芝支部	〒158-0082 世田谷区等々力6-13-5	

# ホームページ会員ページログイン(情報部)

## 同窓会ホームページに関するお知らせ

### 1. ホームページの会員ページについて

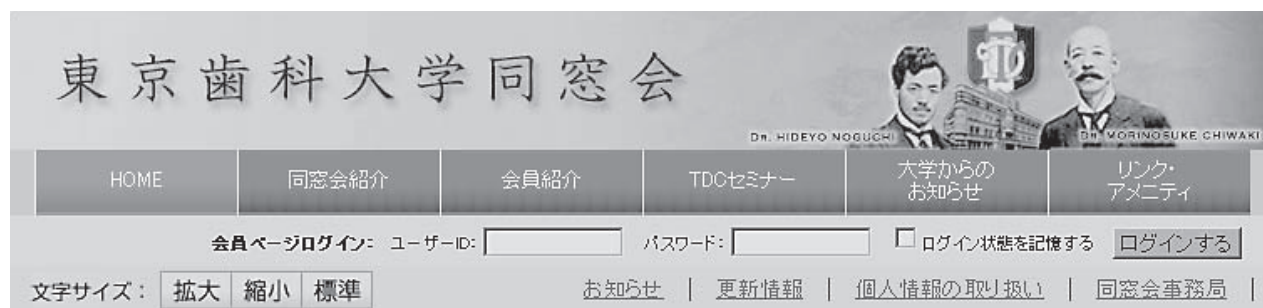
情報部では、会員のページのセキュリティー向上を目的として、昨年3月より、同窓会ホームページのログイン方法ならびにユーザー ID・パスワードを変更いたしました。

主な変更点は、トップページの右上にユーザー ID とパスワードを入力する欄を設けました。そこにユーザー ID とパスワードを入力して頂くことにより、会員のみが閲覧可能なトップメニューが表示される仕組みになっており、すでに多くの会員の皆様にご活用いただいております。

会員の皆様には、お手数をお掛けして大変申し訳ございませんが、何卒ご協力下さいますようお願いいたします。さらに、「ログイン状態を記憶する」にチェックを入れていただければ、次回から自動的にログインすることが出来ますので是非ご利用下さい。

なお、このユーザー ID とパスワードについては、会員以外に知られないよう厳重な管理と守秘をお願いいたします。

<http://www.tdc-alumni.jp>



ユーザー ID : tdc-alumni

パスワード : p83fkW7m (全て半角英数字)

※すでにご活用の方の会員の皆様には、昨年3月の変更時から ID ならびにパスワードの変更はありませんことを申し添えさせていただきます。

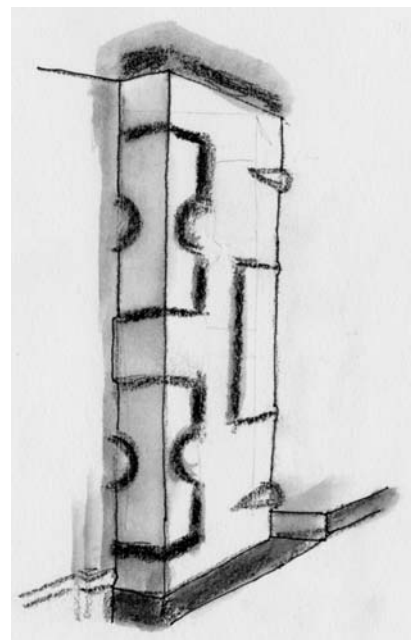
### 2. ホームページへの投稿について

情報部委員会では、①トップページの写真②会員の HP 紹介 ③同窓会員の著作紹介等に関する投稿を募集しております。いずれも情報部アドレスまで電子メールでお送り下さい。順次掲載させていただきます。

- 1 トップページの写真については、画像ファイル (JPEG 形式、サイズは900x600pixels 程度まで) 添付の上、メール本文に、ご氏名、都道府県名、卒業年、写真のタイトル、撮影日をご記入下さい。
- 2 会員の HP 紹介については、メール本文に、ご氏名、都道府県名、卒業年、HP のアドレスをご記入下さい。
- 3 同窓会員の著作紹介については、メール本文に、本のタイトル、著者名、出版社名等必要と思われる情報をご記入下さい。

情報部メールアドレス : [joho@tdc-alumni.jp](mailto:joho@tdc-alumni.jp)

同窓会情報部委員会



---

右上イラストがすぐわかるのは昭和50年代前半の卒業以前の同窓だと思います。水道橋旧校舎の懐かしい柱です。学生時代、教員時代の思い出が甦る方もいらっしゃるかもしれません。柱の質感、触感まで思い出される方も少なくないのではと思います。描いたのは昭和41年卒野村 淳先生です。昨年まで同窓会報の表紙でお世話になっていました。これからこのシリーズが同窓会報の挿絵として入る予定です。

## ◆投稿規定

### (1) 原稿締切り

原稿の締切りは、奇数月の10日までとし、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。

### (2) 投稿様式

投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ(2Lなど)で、集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。

### (3) 投稿字数

- ① 「すいどうばし」欄(随想、詩、短歌、時評など)は、1編1,600字程度
- ② 「支部のうごき」「クラス会だより」は、本文のみの場合1,600字程度。写真が入る場合、3

段抜き900字、2段抜き400字、1段抜き200字減らして下さい。

### ③ 「追悼」は、500字程度

- (4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。

なお、掲載については委員会にご一任いただきます。

### (5) 写真等の返却

写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真などの場合は、その旨書き添えて下されば返送いたします。

写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧ください。

## ◆へんしゅうこうき

- ★ 私の診療室に重いリュウマチで何回も関節の手術をしている患者さんがいる。このところ痩せて動きも鈍い。明るい性格で話していても辛さを感じさせないが、チェアから立つ時には痛さのためだろう渾身の力を込めた顔になる。しかし、しょせん私にはこの患者さんのほんとうの「苦しみ」はわからないのだと思う。
- ★ 以前新聞で家のない野宿者が集まる町大阪・釜ヶ崎でそのような人への支援をしている本田哲郎神父の記事を読んだことがある。「人はしょせん、他人の立場に立つことはできないのだというのが、私が19年間、釜ヶ崎で暮らしてわかったことです。相手の立場に立ってみるつもりで善意の押しつけが、実は相手の尊厳を傷つけ、差別や偏見の元になることがある。でも、かかわりをあきらめるのではなく、相手より下に立つ心構えが必要です。」
- ★ 「継承と発展」をメインテーマとした創立120周年記念学術講演会そして記念式典、講演会、祝賀会が盛大にとり行われた。晴れがましい限りである。またこれから移転に望む大学の新人事も発表されている。大学120年の重みを肩に背負って大変な激務を担われることと思う。しかし同窓には「しょせんほんとうの……」
- ★ 本田神父の言葉は次のように続きます。「人間にとって大切なのは、良い人になることでも、立派な大人になることでもなく、人の痛みを放っておけない心を持つこと。」同窓の痛み・悩み、大学関係者の苦労など同窓会報を通じてお役にたてれば幸いです。

(三友 和夫 記)

広報部委員会

委員長  
委員

三友 和夫  
東郷 幹夫  
小池 修  
古澤 成博  
尾崎 圭子  
福井 雅之  
島田 篤

広報部担当理事

白田 準

平成22年6月20日 印刷

平成22年6月25日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第376号

同窓会ホームページアドレス

<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 白 田 準

編集人 三 友 和 夫

東京歯科大学同窓会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)